

トライアングル

発行日／令和3（2021）年4月 発行／一般社団法人 大阪知的障害者福祉協会 発行責任者／松上利男 編集／松嶋桂子
〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4番15号 大阪府社会福祉会館内
TEL 06-6763-3785 FAX 06-6763-3759 E-mail osaka-chifukukyo@giga.ocn.ne.jp

座談会

当たり前が、 どれほど幸せなのか



Q クラスター発生後の対応はどのようなことを
していますか。

■つるみの郷（高部氏）

- ・街の中に施設があるため、散歩や外出を控えるなどの対応が必要でした。
- ・クラスター発生後、生活スタイルは一変しました。
- ・クラスター発生に限らず、面会などを一旦無くした

前号に引き続き、1年が経過しているにも関わらず、大きな波となって今現在も世界に押し寄せてくる新型コロナウイルス感染症について、正しく理解し、正しく感染予防対策をする、そして正しく恐れることが私たちにとって、とても大切なことではないでしょうか。

市中感染やクラスターという言葉はメディアでも多く取り上げられるようになり、何故かクラスターを発生させたという意味合いだけが前面に押し出され、関係者を守るため感染予防対策をしているにも関わらず、マイナスの視点からの情報が優先されてしまっているのではないのでしょうか？

クラスターという言葉は、集団生活を送っている福祉施設や医療機関にとって、強い危機感と恐怖を感じることは間違いないと思います。

今回は、新型コロナウイルス感染症によるクラスター発生を経験をし、クラスター発生後の対応や課題、収束に至るまでの経緯と生活の変化について、社会福祉法人産経新聞厚生文化事業団 第2三恵園施設長の木村勝也氏、社会福祉法人椿福祉会常務理事の高部真実氏からお話を伺うことが出来たので、正しい理解をより深めていただくためにも、ぜひご覧いただければと思います。

（広報委員 松嶋桂子（委員長）、水津由依、高部良太、溝口遥、吉岡裕幸）

令和3年3月23日開催

ことにより、ご家族の顔を忘れてしまうご利用者もいました。現在は、アクリル板越しに行なっています。ご利用者のお部屋に机や椅子がある方ばかりではないため、床に置いて食べたり、布団の中で食べる方もいました。コロナ禍前の生活リズムに戻る難しさがありました。

■第2三恵園（木村氏）

- ・手洗い、アルコール消毒の徹底が有効だと感じました。

座談会 当たり前が、どれほど幸せなのか……………1
～クラウドファンディングで支援の輪～
防護ガウン 5,000 枚をご寄贈いただきました!! ……………3
つなぐ思い 心のこもった地域交流 ……………3

障害者支援施設部会 コロナワクチンに関する
アンケートから見る不安について……………3
知的障害者施設における感染対策のポイント～第3回日中
活動・生産活動・就労支援部会 研修会報告～……………4
●ちょっとつばきリレー●
堺市立第2もず園 西留 幸子 ……………4

・クラスター発生時には、各ご利用者は自室で過ごしてもらおうことが多く、食事をするペースが遅くなったり食べる量が大幅に衰えてしまい、体重減少をする方がたくさんいました。また、運動不足から、脚力や体力の低下が顕著に見られました。・食事場所やトイレ、入浴などの日常生活の移動で、いかに運動をしていたのか実感しました。

Q クラスター発生後の課題はありますか。

■ つるみの郷

・健康、生活リズムを整えること。

■ 第2三恵園

・安心を取り戻す。

・正確な情報収集、情報発信については、ホームページを使って施設内の状況がどうなっているのかを掲載していました。ご家族が見てくれていて、アクセス数が上がりました。

・情報共有については、対応に追われている現場職員が見て分かるように、管理職がホワイトボードに罹患者や療養者などの一覧を日々書き出していました。

Q クラスター発生前後の生活変化はありますか。

■ つるみの郷

・発生後は職員間の意見交換やコミュニケーションが多くなりました。

・職員に対して、ホテル滞在費や食事、手当など施設で負担するものを明確にしたことで、安心して支援業務をすることが出来ました。

■ 第2三恵園

・感染症についての認知が広まり、ご家族からは職員を労う言葉をかけてもらいました。

Q 職員の人間関係などの変化はありましたか。

■ つるみの郷

・職員間で疑心暗鬼になる場面では、皆加害者ではなく、被害者であると話しました。

・職員の行動について、福祉従事者という立場（対人援助支援）を理解してもらうよう説明をし、感染リスクの理解を図りました。

■ 第2三恵園

・クラスターの対応をした職員と、対応をしていない職員では危機管理などに温度差があり、収束した直後は何気ない一言に引っかかり、摩擦が生まれることもありました。

Q その他

■ つるみの郷

・歯科の定期通院や健康管理、生活習慣病などの診療回数が減り、このままで大丈夫かという懸念が職員から上がりましたが、現場職員から声を上げて、現場で必要なものは何なのかと提案をすることで、実態に沿ったものを準備してもらえる環境づくりを確保していただきたいと思います。

・ハイターの希釈方法（購入から3年以内での濃度で調整）や防護服の着脱方法など、共通認識の徹底が必要になります。

■ 第2三恵園

・職員間で同じ意識をもって、予防の徹底をしなけ

ればいけないですが、共通認識を持つことは難しいと感じました。しかし、このままではいけないので、実際に防護服を着用して模擬体験をすることで、実際の大変さを知る機会を設けました。

Q 福祉協会からお手伝いできることはありますか。

・物資の備蓄と配布。

・応援スキームを活用しましたが、21施設から協力できるとの返答をいただけました。

・協会に加入しているが関わりの少ない施設様からも、「頑張ってください」などの激励文をいただき、施設内に張り出して非常に勇気づけられました。・自法人、自施設で乗り越えないといけない不安の中、物資提供や激励の言葉がたくさん現場に届き、心強くなりました。これこそが、協会の存在意義になるのではないかと思います。

集団での生活を過ごしてきた福祉施設での日常が一変した現在、その一変した生活を元に戻すことがどれほど難しいものか、当たり前前のごとがどれほど幸せなのか、一人ひとりがこの仕事にプライドを持って過ごしてほしいとおっしゃられた言葉の重さを痛感いたしました。私たち福祉従事者にとって、命を守るための行動は共通していると思います。今できる予防対策を行ない、リスクマネジメントを考えることで、目の前にある日常を持続させることが唯一の安心と幸せなのではないでしょうか。ともに頑張りましょう！

つなぐ思い 心のこもった地域交流

社会福祉法人和光福祉会 指定障がい者支援施設 熊取療育園

地域との繋がりを大切に、長きにわたり交流を続けている熊取療育園では、今年で7年目を迎える地域や学校との継続した交流があり、その式典を視察してきました。今回の交流先は、近隣地域にある熊取町立南小学校で、熊取療育園のみなさんが作った防災頭巾を、毎年入学される新1年生の子どもたちへ寄贈しています。そして、6年前に防災頭巾をもらった子どもたちが6年生となり、防災頭巾のお礼として布マスク100枚を寄贈していただけたとのこととで、南小学校体育館で式典が行われました。熊取療育園からもご利用者2名が正装

(広報委員
吉岡裕幸)



～クラウドファンディングで支援の輪～

防護ガウン 5,000 枚をご寄贈いただきました!!

大阪知的障害者福祉協会では、昨年末に「株式会社コンシェルジュ」様(徳山幸江社長 本社・東京都港区)より、新型コロナウイルス感染症防止対策の一助にと不織布製防護ガウン5,000枚の提供のお申し出をいただき、2月15日に希望する会員事業所に対し無償配付を行いました。この度のお話は、「一般社団法人福祉防災コミュニティ協会」上級コーチの湯井恵美子様からのご紹介によるもので、湯井様も精力的に活動されている「防災企業連合関西そなえ隊」幹事の松尾紀明様が、当福祉協会のためにクラウドファンディングを立ち上げていただいたことにより実現致しました。

徳山様、湯井様、松尾様を始め、クラ

ウドファンディングにご賛同いただきました個人及び関係団体の皆様に心より感謝申し上げます。(広報委員 高原良太)

クラウドファンディングの概要

プロジェクト名

障がい者施設のいのちをコロナから守りたい!!
防護服の提供に力を貸してください!!

<https://camp-fire.jp/projects/view/374418>

募集期間 1月31日(日)～2月27日(土)

支援総額 850,000円

(内手数料9% 目標金額3,200,000円)

※差額は株式会社コンシェルジュ様
が負担されています。

支援者数 109人

ガウン配付日 令和3年2月15日(月)

配付事業所数 89事業所

配付枚数 約4,600枚(400枚は協会で備蓄)

障害者支援施設部会 コロナワクチンに関するアンケートから見る不安について

コロナワクチンの接種が始まり、連日報道されておりますが、障害のある方への接種については、意思確認をはじめ接種をどのような体制で実施できるのか不安が募るところです。ここでは、2月に部会において実施したアンケートの内容からその一端をお伝えします。

問1 コロナワクチンの接種について

【利用者】積極的に接種推奨 8 本人(家族)の意思尊重 11 未定 5

【職員】積極的に接種推奨 10 本人(家族)の意思尊重 10 未定 4

問2 ワクチンの副作用について

非常に気になる 3 気になる 16 あまり気にならない 4 気にならない 0

問3 ワクチン接種において気になること(多数意見・同内容等を集約のうえ抜粋にて記載)

- ・利用者・職員等が全員接種前提での予防だが、意思確認を尊重すれば担保できない。
- ・ワクチンに関する情報が真偽不安や過多により正確な情報を選別できない。
- ・副作用時の対応と補償について責任の所在や補償について明確でない。
- ・高齢期の利用者・職員等、施設利用者・関係者でも接種時期がばらつくのではない不安
- ・施設所在地または利用者住所地による接種調整への不安

入所施設においては、関係者全員接種での予防を望みたいが、個人の意思の尊重及び利用者の意思確認が課題となっています。また、アナフィラキシーの際、利用者が症状を訴えられない場合や、対応・責任の所在・補償について明確な基準を示していただき、保健所・行政機関等との連携をはかりながら、正確な情報に基づき安心できる体制確保の上でワクチン接種を望みたいと皆さんからの意見を集約しながら感じました。

障害者支援施設部会 部会長 木村勝也

知的障害者施設における感染対策のポイント

第3回日中活動・生産活動・就労支援部会 研修会報告



令和3年3月13日（土）、大阪府社会福祉会館505号室にて大阪市立大学医学部附属病院感染管理認定看護師の岡田恵代氏、公立大学法人大阪 感染制御部認定看護師の野々瀬由佳氏を講師としてお招きし、日中活動・生産活動・就労支援部会主催の「知的障害者施設における感染対策について」の研修会がありました。約17名の方が参加され、感染対策におけるポイントや注意点、実際にコロナウイルス感染者が発生した場合の対応シミュレーション等の座学をはじめ、正しい手指消毒や防護具の着脱の実演練習を行いました。

岡田氏は、「いつどこで感染してもおかしくない状況下であり、日々の感染対策が重要であること」「感染対策を徹底していれば、クラスターが発生したときに適切な対応が可能である」と話されておりました。

感染対策の基本は3点あり①手指衛生②個人防護具③環境整備がとて重要で、手洗いと手指消毒薬を適切なタイミングで行い、利用者と関わる前後（利用者ごと）に手指衛生をし、感染を広げないようにします。また手指消毒薬や防護具などの感染対策グッズは、人や場面に合わせて確実に遂行できる材料を用意するという視点も大切です。環境整備とは、整理整頓・清掃・消毒のことをさします。日々行っている消毒作業が効果的に発揮されるためにも、まずは整理整頓を行い、清潔な環境を心掛ける必要性を感じました。

さらに大切なこととして、利用者だけでなく職員も健康状態も毎日チェック、記録し、いつからどのような症状がどの程度あるのかを毎日記録することです。実際に感染者が発生した場合、まずは情報を整理することから始まります。いつ、誰が、どのようなケアを行い、感染者と接触したかを適切に整理することが、利用者、職員の命を守ることに繋がるのだと感じました。

感染対策について、どの事業所においても検討されていることと思います。利用者に医療的ケアが必要なのか否か、または利用者の免疫状態、感染防止行動がどこまで理解され実践できているかに応じて、感染対策を講じることが重要です。また、利用者の安全・安心な生活を保障していく視点も押さえ、感染対策と利用者の生活という両方のバランスを常に考慮していくことが、今後の課題であると感じました。

（広報委員

溝口遙、吉村周一）



ちょっと

つばやき…リレー

堺市立第2もず園

児童発達支援管理責任者 西留 幸子

私が勤務する児童発達支援センター、堺市立第2もず園には、2歳児から就学前までの子どもたちが通っています。現在はコロナ禍で行事を縮小したり、取り組みに制約があるなど、例年通りとはならないこともあります。そんな中でも、心身ともに大きくなっていく子どもたちに私は日々喜びと力をもらっています。毎朝、保育室に向かう子どもたちの表情は、今日は何して遊ぼうかな？と生き生きしています。入園したばかりの頃は、お家の人から離れて不安いっぱいだった子どもたちも、大人に受けとめられる安心感の中で好きな遊びをたっぷり楽しみ、お友だちみたいになっ



ていたい、先生と一緒にできるかな、と経験を広げていきます。子どもたちの笑顔は、保護者の皆様の安心にもつながります。ある日の親子クラスでのこと。大きなトランポリンで遊ぶ子どもたちを見守る保護者の方々は皆、笑顔いっぱいでした。我が子以外の子にも手をつないで跳ばせてあげたり、自分でよじ登ろうとする子を我が子のように応援したり…。共に同じ時間を過ごす中で悩みや喜びを共有し、保護者同士のつながりができていくのを感じます。

もず園に通う中で、誰かに相談したり力を借りたりしていいんやなあ、と感じてもらい、それぞれの一步を踏み出せるお手伝いをしていきたいと思っています。

次回は
三恵園の
平川 美規子さんに
お願いします